

自分で研究し自分で作った「かわいい」で、友だちに褒められるのが嬉しい

3 分ブリーフィング

【パート A : 今日のメイク】

根拠：「目頭にピンクをのせてみた」「YouTube で見てたらそこにのせるとかわいくなるって言ってて」「友達にかawaiiって言ってもらえると嬉しい」「負けたくない感じもちよっとある」という発言。

推論：メイクのこだわりは YouTube で仕入れた情報を自分で試してみるという実践志向から来ている。友達への承認欲求と競争心が共存しており、メイクは「かわいくなる手段」であると同時に「友達の中での自分の位置づけ」に関わるものになっている。

FD：紬ちゃんにとってメイクは、YouTube で学んだことを自分で試す実践の場であり、友達の中で「かわいい・うまい」と認められるための手段になっている。

【パート B : メイクを始めたきっかけ】

根拠：「1 年生の時にママの化粧台のきれいな色に触ってみたくなった」「ママのは使っちゃダメって言われた」「お年玉になったらいいよって言われてずっと待ってた」「友達が教えてくれた YouTube を見るようになってもっとやりたい気持ちが強くなった」という発言。

推論：メイクへの入口はママの化粧台という身近な環境への純粋な興味だった。親からの制限を受けながらも諦めず、友達の YouTube 情報をきっかけに欲求がさらに高まった。許可を得るまでの待機期間に友達のものを借りたり YouTube で研究したりと、欲求を能動的に育て続けた構造がある。

FD：メイクへの動機は身近な環境への好奇心から始まり、親の制限と友達の影響によって欲求が強化された。「待たされた」経験がメイクへの思いをより強くした可能性がある。

【パート C : 使っているアイシャドウのこと】

根拠：「YouTube のお姉さんが使ってたから同じのが欲しくて」「パッケージがかわいくて色もやさしい感じ」「派手なのはダメって言われそうだからちょうどいい」「お年玉になったらいいよって言われてずっと待ってた」「自分のお金で買うから自分で選んでいいって」という発言。

推論：キャンメイクを欲しいと思った一次的な動機は YouTube のお姉さんへの憧れだが、店頭では色味やパッケージを自分の目で確認し「ママに怒られなさそう」という親の目線も織り込んで最終判断している。またメイクの許可そのものが「自分のお金で買う」という条件とセットだった。自分のお金で買うことが単なる購買手段ではなく、メイクをする権利を自ら獲得するプロセスになっている。

FD：キャンメイク購入には「憧れのお姉さんと同じものを手に入りたい」という動機と、「自分のお金で買う」ことでメイクの許可を勝ち取るという親子の交渉構造が重なっている。自分で選び自分のお金で買うという経験が、メイクへの愛着をさらに強めている。

【パート D：キャンメイクについて】

根拠：「お姉さんと同じの使ってるとちょっとお姉さんに近づいた感じがする」「同じキャンメイクで練習できるから嬉しい」「ロムアンドはお姉さんがつけるやつって感じ、友達はうまくつけててすごいと思う」という発言。

推論：キャンメイクは YouTube のお姉さんへの憧れと友達との一体感を同時に満たすブランドになっている。ロムアンドは「上の段階のブランド」として位置づけており、いつかそこに到達したいという上昇志向の目標になっている。

FD：キャンメイクは「憧れに近づけるブランド」かつ「友達と同じ安心感」を与えるブランドとして機能している。ロムアンドは現時点では手が届かない「次のステージ」として意識されている。

【パート E：メイクを頑張る理由】

根拠：「自分で YouTube 見て自分でやってるから自分でできてる感じがする」「同じアイシャドウでも色の使い方やどこにのせるかが違う、それが自分のかわいさ」「自分で考えてやったから、自分で作った感じ、自分のだって感じがして嬉しい」という発言。

推論：メイクの核心的な喜びは「誰かに教えてもらうのではなく自分で考えて作った」という自律的な創造感にある。友達と同じキャンメイクを使いながらも

「やり方は自分で考える」ことで自分だけのかわいさを作り出すことに強い意味を見出している。

FD：紬ちゃんにとってメイクの本質的な価値は「自分で考えて自分だけのかわいさを作ること」にある。ブランドや道具は共有しながらも、表現は自分だけのものでありたいという自律的な創造欲求がメイクを続ける核心的な動機になっている。

【全体総括】

根拠：「お姉さんに近づいた感じ」「負けたくない」「教えてって言われると嬉しい」「自分で作った感じ、自分のだって感じ」という発言が全パートを貫いている。

推論：紬ちゃんのメイクは、YouTubeのお姉さんへの憧れを入口に、友達との競争と承認のサイクルの中で育ち、最終的には「自分で考えて自分だけのかわいさを作る」という自律的な創造の喜びに到達している。親の制限を意識しながらも、その範囲内で自分の表現を最大化しようとする賢さもある。

FD：紬ちゃんにとってメイクは「憧れに近づく手段」から始まり「友達の中で認められる武器」を経て「自分だけのかわいさを自分で作る創造の場」へと深化している。キャンメイクはその全ての段階を支えるブランドとして機能している。

対象者プロフィール

- 氏名：紬（つむぎ）
- 学年・性別：小学3年生・女兒
- 居住エリア：大阪府吹田市
- 父職業：商社
- 母職業：会社員
- 小学校種別：公立小
- 生まれ順：第1子（一人っ子）
- 世帯年収：800万
- お小遣い：月300円
- 使用ブランド：キャンメイク（プティパレットアイズ）
- メイク頻度・シーン：月3回・友達と遊ぶ時や週末の外出時
- 購入区分：お年玉を原資に、親同伴で自購入

- CANMAKE ユーザー
-

発言録

パート A：今日のメイク

AI モデレーター：こんにちは。今日はメイクのこと、いろいろ教えてもらいに来たよ。何を言っても正解・不正解はないから、思ったことを正直に話してね。今日はなんて呼んだらいい？

紬：つむぎって呼んでください。

AI モデレーター：つむぎちゃんね。よろしく。じゃあさっそく聞かせてね。今日はどんなメイクしてきてくれた？どこかこだわったところや、気に入ってるところを教えて。

紬：アイシャドウつけてきた。キャンメイクの。今日は目頭のところにピンクをちょっとのせてみた。

AI モデレーター：目頭にピンクをちょっとのせてきたんだね。それってなんでそこにのせようと思ったの？

紬：YouTube で見てたら、そこにのせるとかわいくなるって言ってて。やってみたかった。

AI モデレーター：実際にやってみてどうだった？

紬：うまくできたかわからないけど、かわいいかなって思った。

AI モデレーター：つむぎちゃんが目指してるメイクってどんな感じ？お手本にしている人とかいる？

紬：YouTube のお姉さん。かわいくてメイクが上手で。ああなりたいって思ってる。

AI モデレーター：そのお姉さんって、大人の人？つむぎちゃんよりどれくらい上のお姉さんなの？

紬：大人じゃないと思う。中学生か高校生くらいかな。

AI モデレーター：同じくらいの歳の子のメイク動画は見ないの？

紬：見たことあるけど、大きい子の方がメイクうまくて。見てて楽しい。

AI モデレーター：メイクした日としない日って、気持ち違う？

紬：違う。メイクした日はテンション上がる。友達に会う時とかなんかいい感じがする。

AI モデレーター：友達に会う時にいい感じがするっていうのは、どういうこと？

紬：かわいくなれてる感じがするから。友達にもかわいって言ってもらえたりするし。

AI モデレーター：友達もメイクしてる子いる？

紬：2 人いる。仲良い子で。1 人はアイシャドウ持ってて、一緒に練習したりする。もう 1 人はリップだけ。

AI モデレーター：一緒に練習するってどんな感じ？

紬：どっちがうまくできたか見せ合ったりして。楽しい。

AI モデレーター：見せ合ってどっちがうまいかってなった時、どんな気持ちになる？

紬：うまくできてたら嬉しい。負けたくないって感じもちょっとある。でも一緒にやるのが楽しいから。

パート B：メイクを始めたきっかけ

AI モデレーター：つむぎちゃん、メイクっていつからしてるの？最初にやってみたのって、どんな時だったか覚えてる？

紬：1 年生の時。ママの化粧台にいろいろ置いてあって、触ってみたら楽しくなって。

AI モデレーター：自分から触ってみたの？それともママが見せてくれたの？

紬：自分から。なんかきれいな色がいっぱいあって、触ってみたくなって。

AI モデレーター：実際に触ってみてどうだった？

紬：楽しかった。自分の目に色がつくのが面白くて。もっとやりたいて思った。

AI モデレーター：ママはその時なんて言ってた？

紬：びっくりしてた。ママのは使っちゃダメって言われた。

AI モデレーター：ダメって言われてどうしたの？

紬：自分のが欲しいってママに言った。でもなかなか OK もらえなくて。

AI モデレーター：なかなか OK もらえなかったんだね。どんなふうをお願いしてたの？

紬：何回も言ってた。お年玉出たらいいよって言われて、ずっと待ってた。

AI モデレーター：待ってる間どうしてたの？

紬：友達のを借りたりしてた。あと YouTube 見てどんなメイクしたいか考えたりしてた。

AI モデレーター：メイクの YouTube っていつ頃から見てるの？

紬：2 年生くらいの時かな。友達が見てるって教えてくれて、私も見るようになった。

AI モデレーター：友達が教えてくれたんだね。その友達って、一緒に練習する子？

紬：うん。その子がお姉さんかわいいよって見せてくれて。それからずっと見てる。

AI モデレーター：見るようになってから、メイクへの気持ち変わった？

紬：もっとやりたいって気持ちが強くなった。こんなメイクしてみたいってのが増えてきた感じ。

AI モデレーター：メイクを始めてから、何か変わったと思うことある？

紬：友達と話すことがメイクのことになったり。なんか毎日が楽しくなった感じ。

パート C：使っているアイシャドウのこと

AI モデレーター：つむぎちゃん、今使ってるキャンメイクのアイシャドウ、なんでそれが欲しかったの？

紬：YouTube のお姉さんが使ってたから。同じのが欲しくて。

AI モデレーター：同じのが欲しかったんだね。他にもいろんなアイシャドウがあるのに、キャンメイクにしたのはなんで？

紬：お姉さんが使ってたのがキャンメイクで。あとお店で見たらパッケージがかわいくて。色もきれいで。

AI モデレーター：パッケージのどんなところがかわいかったの？

紬：なんかピンクっぽい感じで。花みたいな模様があって。なんかおしゃれな感じがした。

AI モデレーター：色がきれいっていうのは、どんな色が気に入った？

紬：ピンクとかベージュとか。なんかやさしい感じの色が好きで。ケバケバしくなくて使いやすいそうって思った。

AI モデレーター：ケバケバしくないのがいいんだね。それってどういうこと？

紬：なんか派手すぎるのはちょっと怖くて。これくらいがかわいいかなって。ママにも怒られなさそうだし。

AI モデレーター：ママに怒られなさそうって思ったんだね。それも選んだ理由のひとつにあった？

紬：うん。ちょっとあった。派手なのはダメって言われそうだから。

AI モデレーター：買う時、誰と一緒にいったの？

紬：ママと一緒にいった。

AI モデレーター：ママはお店でなんて言ってた？

紬：最初はいろいろ見てたけど、私がキャンメイクがいいって言ったら、じゃあそれにしなって。

AI モデレーター：メイクすること自体について、ママはどんなこと言ってた？

紬：最初はまだ早いって感じだったけど、アイシャドウだけならいいかってなった感じ。口紅とかはまだダメって言われてる。

AI モデレーター：アイシャドウだけならいいってなったのって、なんでだと思う？

紬：うーん、わかんない。でもお年玉だから自分のお金だし、それもあったのかな。

AI モデレーター：買った後、初めて使ってみた時どうだった？

紬：嬉しかった。家に帰ってすぐやってみた。YouTube のお姉さんみたいにやってみたけど、難しかった。

AI モデレーター：難しかったんだね。それでどうした？

紬：何回も練習した。最初よりはうまくなってきた感じがする。

パートD：キャンメイクについて

AI モデレーター：つむぎちゃん、キャンメイクって使ってみてどんなところが好き？どんなイメージ？

紬：なんかかわいい感じ。色がやさしくて使いやすいし。あと YouTube のお姉さんと同じだから、なんか嬉しい感じがする。

AI モデレーター：YouTube のお姉さんと同じだから嬉しいっていうのは、どういう感じ？

紬：なんか、同じの使ってるって思うと、ちょっとお姉さんに近づいた感じがして。

AI モデレーター：キャンメイクをやめて他のにしようと思ったことはある？

紬：ない。キャンメイクがいいから。

AI モデレーター：キャンメイクじゃないといけない理由って、何かある？

紬：うーん、やっぱりお姉さんが使ってるから。あと色がかわいいから他のにしようって思わない。

AI モデレーター：友達はキャンメイク知ってる？持ってる子いる？

紬：一緒に練習する子が持ってる。同じキャンメイクで。

AI モデレーター：同じキャンメイクなんだね。それってどんな感じ？

紬：なんか嬉しい。一緒だねって感じで。同じので練習できるから。

AI モデレーター：お店で他にいいなと思ったアイシャドウはなかった？

紬：あった。ロムアンドっていうの。友達が持ってるやつで。

AI モデレーター：ロムアンドのどんなところがいいなって思った？

紬：なんか色がきれいで。ちょっと大人っぽい感じがして。カッコいいなって思った。

AI モデレーター：カッコいいなって思ったのに、キャンメイクにしたのはなんで？

紬：ロムアンドはなんかちょっと難しそうで。色が濃い感じがして、うまく使えるかわからなくて。キャンメイクの方が使いやすいそうって思った。

AI モデレーター：色が濃いとどうなりそうって思ったの？

紬：なんかうまくできなさそうで。なんか怖くて。

AI モデレーター：怖いんだね。ロムアンドのことはどう思ってる？

紬：カッコいいと思う。でもなんか私には違う感じがして。

AI モデレーター：私には違う感じって、どういうこと？

紬：なんか、お姉さんがつけるやつって感じがして。私にはまだキャンメイクの方がいいかなって。

AI モデレーター：お姉さんがつけるやつって感じがするんだね。

紬：うん。友達もロムアンド持ってる子いるけど、なんかその子はうまくつけてて。すごいなって思う。

パートE：メイクを頑張る理由

AI モデレーター：つむぎちゃんって、なんでメイク頑張ってると思う？

紬：うーん、かわいくなりたいから。あと友達と一緒にやるのが楽しいから。

AI モデレーター：かわいくなりたいっていうのは、どんな時に思う？

紬：友達に会う時とか。あと YouTube のお姉さん見てる時とか。ああなりたくなって。

AI モデレーター：友達に会う時にかわいくなりたいって思うのはなんで？

紬：なんかかわいって言ってもらえると嬉しいから。あと負けたくない感じもあるし。

AI モデレーター：負けたくないっていうのは、どういうこと？

紬：一緒に練習する子がいるから。その子よりうまくなりたいって思う。でも仲良くやってる感じ。

AI モデレーター：さっき友達に負けたくないって言ってたけど、それってどういう感じ？

紬：なんか、その子よりうまくてたら嬉しいっていうか。なんかすごいって思われたい感じ。

AI モデレーター：すごいって思われたいんだね。誰にすごいって思われたい？

紬：友達に。あとクラスの子にも。

AI モデレーター：クラスの子にもすごいって思われたいんだね。メイクがうまいとクラスでどんな感じになるの？

紬：なんか、メイクのこと聞いてくる子が増えてきて。教えてって言われたりする。

AI モデレーター：教えてって言われた時どんな気持ちになる？

紬：すごく嬉しい。なんか得意な感じがする。

AI モデレーター：メイクって、つむぎちゃんにとってどんなものって感じがする？

紬：うーん...なんか、得意なことって感じ。あとかわいくなれるから好き。

AI モデレーター：得意なこと、か。他に得意なこととかある？

紬：体操教室やってて、そっちも得意。でもメイクはなんか自分で考えてやるから、違う感じがする。

AI モデレーター：自分で考えてやってるから違う感じっていうのは、どういうこと？

紬：体操は先生に教えてもらうけど、メイクは自分で YouTube 見て自分でやってるから。なんか自分でできてる感じがして。

AI モデレーター：自分でできてる感じがするのって、どんな気持ち？

紬：なんか嬉しい。自分だけのかわいさって感じがする。

AI モデレーター：自分だけのかわいさって言ってたけど、それってどういう感じ？

紬：なんか、みんなと同じじゃなくて。自分でこうしようって決めてやってるから。

AI モデレーター：みんなと同じじゃないのがいいの？

紬：うん。なんか、自分だけの感じがして。友達と同じキャンメイク使ってるけど、やり方は自分で考えてるから。

AI モデレーター：友達と同じキャンメイクなのに、自分だけの感じがするんだね。それってどういうこと？

紬：なんか、同じアイシャドウでも色の使い方とか、どこにのせるかとかが違うから。それが自分だけのかわいさって感じがする。

AI モデレーター：その自分のかわいさって、誰かに見てほしい？

紬：うん。友達に。あとクラスの子にも。なんかこれ私がやったんだって思いたい感じ。

AI モデレーター：これ私がやったんだって思いたいっていうのは、どういう気持ち？

紬：なんか、自分で考えてやったから。誰かに言われてじゃなくて、自分で作った感じがするから。自分のだって感じがして嬉しい。

AI モデレーター：これからやってみたいメイクってある？

紬：アイライナーやってみたい。あとチークも。

AI モデレーター：アイライナーのどんなところがやってみたい？

紬：目がはっきりする感じがカッコいくて。YouTube のお姉さんもよくやってて。

AI モデレーター：チークはどんなところがやってみたいの？

紬：なんかほっぺがピンクになってかわいいから。顔全体がかわいく感じる感じがして。

AI モデレーター：チークってママは OK してくれそう？

紬：うーん、わかんない。アイシャドウは OK だったから、もしかしたらって思ってるけど。

AI モデレーター：つむぎちゃん、今日はいろいろ教えてくれてありがとう。メイクのこと、すごく詳しく話してくれて嬉しかったよ。これからもメイク楽しんでね。

紬：ありがとうございました。